公開講演会

移民の社会統合

西欧の経験から学ぶ

多文化共生社会構築の課題と可能性

日　時：2018 年 11 月 10 日（土）14：30～18：00

会　場：立教大学 池袋キャンパス 9 号館 9000 教室

基調講演「西欧の移民政策の変遷 – 歴史学者の視座から」

・マリオン プラスコタ氏　Dr. Marion Pluskota
ライデン大学社会史研究所、2018 立教大学招聘研究員

指定討論

・宮島　喬氏　お茶の水女子大学名誉教授

・小山　友氏　千葉大学人文公共学専攻博士後期課程

企画・司会　小長井 賀與　立教大学　　通訳有

研究会趣旨

現在の日本の在留外国人数は約 260 万人に上るが、政府はさらに人手不足が深刻な業種で外国人労働者の受入拡大を表明した。このような趨勢は、日本は実質的に多民族国家に突入しつつあることを示す。しかし、現状で外国人受入れに必要な社会・経済的制度の整備が不十分な為に種々の問題が生じており、多文化共生に向けての条件整備は日本の喫緊の課題である。

そこで、移民研究の拠点の一つであるライデン大学から新進気鋭の移民史研究者を招聘し、さらに、日本の移民研究の碩学である社会学者とオランダの移民政策を学ぶ若手研究者を指定討論者に迎え、西欧の経験を学びつつ、多文化共生社会構築のための日本の課題と可能性を考察する。

本学学生・教職員・校友・一般　対象

事前申込不要
参加費無料

主催：立教大学コミュニティ福祉学部
後援：立教大学平和・コミュニティ研究機構
日本犯罪社会学会

問合せ先：小長井 賀與（コニュニティ福祉学部）
E-mail:k-konagai@rikkyo.ac.jp